

30 消防用設備等の活用状況

【関連章第8章】

事例1 「工場から出火し、二酸化炭素消火設備を活用した火災」

出火時分 6月 4時ごろ

用途等 工場 準耐火造 2/0 延 5,400 m²

防火管理 該当選任あり 消防計画あり

被害状況 建物ぼや1棟 圧延機1機等焼損

概要

この火災は、工場から出火し、圧延機1機等が焼損したものです。

出火原因は、圧延機で使用されている油が圧延機本体の熱により発火した可能性があります。確たる物証が得られないため不明となっています。

従業員は圧延機を使用していたところ、機器から炎と煙が出たのを発見したため、すぐに工場内に設置してある粉末消火器を使用するとともに二酸化炭素消火設備を起動させ、初期消火を実施しています。また、付近を通行していた配達員は工場から黒煙が見えたため火災だと思い、自身の携帯電話で119番通報しています。

教訓等

この火災では、火災に気付いた従業員が協力して消火活動にあたっており、粉末消火器や二酸化炭素消火設備を有効に使用、作動させたことで延焼火災を防いでいます。

この工場では、年に1回の自衛消防訓練と年2回の設備の取扱い訓練を実施しており、その訓練の効果が発揮されたものと言えます。

火災を起こさないことが最も重要ですが、万が一火災が起きてしまった時には、適切に消防用設備等を活用し、被害を最小限に留めなければなりません。そのためにも、自衛消防訓練等の機会を捉え、消防用設備等の設置状況や取扱い方法を周知しましょう。



写真 30-1 出火時の状況



写真 30-2 出火箇所付近の状況



写真 30-3 二酸化炭素消火設備の状況